

第3章 新入生および保護者対象調査の結果報告 —奨学金・学生寮に関する集計結果—

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 方法

調査対象者、調査時期、質問項目については、調査の概要に記載されているため、省略する。

(3) 奨学金に関する結果

①新入生の結果

どのような学生が、奨学金について認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」×「奨学金の受給経験」、「兄弟姉妹の人数」、「出身地」、「学生寮の認知」のクロス表を作成した。「奨学金の認知」、「学生寮の認知」は、それぞれの選択肢の中で、一つでも認知していれば「知っている」とした。結果を表1-1～1-4に示す。

表1-1 奨学金受給経験 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	あり	度数	42	13	55
		総和の %	76.4%	23.6%	100.0%
	なし	度数	232	129	361
		総和の %	64.3%	35.7%	100.0%
合計		度数	274	142	416
		総和の %	65.9%	34.1%	100.0%

これまでの奨学金経験と奨学金認知度間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度の結果とは異なるものであった。

表 1-2 兄弟姉妹人数 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
兄弟姉妹人数	2人	度数 総和の %	152 65.2%	81 34.8%	233 100.0%
	3人	度数 総和の %	63 67.7%	30 32.3%	93 100.0%
	4人	度数 総和の %	11 68.8%	5 31.3%	16 100.0%
	5人	度数 総和の %	3 75.0%	1 25.0%	4 100.0%
	非該当	度数 総和の %	43 69.4%	19 30.6%	62 100.0%
	不明	度数 総和の %	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%
合計		度数 総和の %	274 66.8%	136 33.2%	410 100.0%

兄弟姉妹の人数と奨学金認知との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 1-3 出身地 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身地	国 内	度数	271	128	399
		総和の %	67.9%	32.1%	100.0%
	海 外	度数	1	6	7
		総和の %	14.3%	85.7%	100.0%
	不 明	度数	2	2	4
		総和の %	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	274	136	410
		総和の %	66.8%	33.2%	100.0%

出身地が国内である場合、奨学金認知度は高く、出身地が海外の場合、奨学金の認知度は低かった。これは昨年度の結果とは異なるものであった。

表 1-4 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知らない	度数	47	51	98
		総和の %	48.0%	52.0%	100.0%
	知っている	度数	227	91	318
		総和の %	71.4%	28.6%	100.0%
合計		度数	274	142	416
		総和の %	65.9%	34.1%	100.0%

学生寮について認知している場合は、奨学金の認知度が高いが、学生寮について認知していない場合は、奨学金の認知度が低いと示された。これは昨年度と同様の結果であった。

また、どのような学生が、奨学金の受給経験があるのかを明らかにするため、「奨学金の受給経験」×「兄弟姉妹の人数」、「出身地」、「学生寮に対する認知」のクロス表を作成した。それぞれの結果を表 2-1～2-3 に示す。

表 2-1 兄弟姉妹人数 と 奨学金受給経験 のクロス表

			奨学金受給経験		合計
			あり	なし	
兄弟姉妹人数	2人	度数	30	203	233
		総和の %	12.9%	87.1%	100.0%
	3人	度数	13	80	93
		総和の %	14.0%	86.0%	100.0%
	4人	度数	2	14	16
		総和の %	12.5%	87.5%	100.0%
	5人	度数	1	3	4
		総和の %	25.0%	75.0%	100.0%
	非該当	度数	9	53	62
		総和の %	14.5%	85.5%	100.0%
	不明	度数	0	2	2
		総和の %	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	55	355	410
		総和の %	13.4%	86.6%	100.0%

兄弟姉妹の人数と奨学金の受給経験との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 2-2 出身地 と 奨学金受給経験 のクロス表

			奨学金受給経験		合計
			あり	なし	
出身地	国 内	度数	54	345	399
		総和の %	13.5%	86.5%	100.0%
	海 外	度数	1	6	7
		総和の %	14.3%	85.7%	100.0%
	不 明	度数	0	4	4
		総和の %	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	55	355	410
		総和の %	13.4%	86.6%	100.0%

出身地と奨学金の受給経験との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 2-3 学生寮認知 と 奨学金受給経験 のクロス表

			奨学金受給経験		合計
			あり	なし	
学生寮認知	知らない	度数	13	85	98
		総和の %	13.3%	86.7%	100.0%
	知っている	度数	42	276	318
		総和の %	13.2%	86.8%	100.0%
合計		度数	55	361	416
		総和の %	13.2%	86.8%	100.0%

学生寮についての認知と奨学金の受給経験との間には、有意な関連は見られなかった。昨年度は学生寮について認知している場合は奨学金の受給経験が多く、学生寮について認知していない場合は、奨学金の受給経験が少ないことが示されていた。

②保護者の結果

どのような保護者が、子どもの奨学金を希望しているか明らかにするため、「奨学金希望」×「奨学金の受給経験」、「奨学金の認知」、「学生寮に対する認知」、「世帯年収」、「家計支持者の年収」、「父親の就労形態」、「母親の就労形態」、「家計支持者の属性」、「入学後の暮らし向き」のクロス表を作成した。それぞれの結果を表3-1～3-9に示す。

表3-1 奨学金受給経験 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
奨学金受給経験	経験なし	度数	224	160	384
		総和の %	58.3%	41.7%	100.0%
	経験あり	度数	11	21	32
		総和の %	34.4%	65.6%	100.0%
合計		度数	235	181	416
		総和の %	56.5%	43.5%	100.0%

過去に奨学金の受給経験がある場合、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表3-2 奨学金認知 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
奨学金認知	知らない	度数	95	25	120
		総和の %	79.2%	20.8%	100.0%
	知っている	度数	140	156	296
		総和の %	47.3%	52.7%	100.0%
合計		度数	235	181	416
		総和の %	56.5%	43.5%	100.0%

奨学金について認知している場合は、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表3-3 学生寮認知 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
学生寮認知	知っている	度数	128	145	273
		総和の %	46.9%	53.1%	100.0%
	知らない	度数	107	36	143
		総和の %	74.8%	25.2%	100.0%
合計		度数	235	181	416
		総和の %	56.5%	43.5%	100.0%

学生寮について認知している場合は、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-4 世帯年収 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
世帯年収	400万円未満	度数 総和の %	1 4.0%	24 96.0%	25 100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数 総和の %	7 28.0%	18 72.0%	25 100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数 総和の %	38 42.7%	51 57.3%	89 100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数 総和の %	41 48.8%	43 51.2%	84 100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数 総和の %	54 71.1%	22 28.9%	76 100.0%
	1200万円以上 1400万円未満	度数 総和の %	25 73.5%	9 26.5%	34 100.0%
	1400万円以上 1600万円未満	度数 総和の %	19 76.0%	6 24.0%	25 100.0%
	1600万円以上 1800万円未満	度数 総和の %	13 86.7%	2 13.3%	15 100.0%
	1800万円以上	度数 総和の %	16 88.9%	2 11.1%	18 100.0%
	不明	度数 総和の %	2 33.3%	4 66.7%	6 100.0%
合計		度数 総和の %	216 54.4%	181 45.6%	397 100.0%

世帯年収が低い場合は、奨学金の希望が多く、世帯年収が高い場合は、奨学金の希望は少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-5 家計支持者の年収 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者の 年収	400万円未満	度数 総和の %	1 3.1%	31 96.9%	32 100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数 総和の %	19 40.4%	28 59.6%	47 100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数 総和の %	49 46.2%	57 53.8%	106 100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数 総和の %	51 55.4%	41 44.6%	92 100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数 総和の %	51 82.3%	11 17.7%	62 100.0%
	1200万円以上 1400万円未満	度数 総和の %	17 70.8%	7 29.2%	24 100.0%
	1400万円以上 1600万円未満	度数 総和の %	15 88.2%	2 11.8%	17 100.0%
	1600万円以上 1800万円未満	度数 総和の %	3 60.0%	2 40.0%	5 100.0%
	1800万円以上	度数 総和の %	8 100.0%	0 0.0%	8 100.0%
	不明	度数 総和の %	2 50.0%	2 50.0%	4 100.0%
	合計	度数 総和の %	216 54.4%	181 45.6%	397 100.0%

家計支持者の年収が低い場合は、奨学金の希望が多く、家計支持者の年収が高い場合は、奨学金の希望は少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-6 父親の就労形態 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数 総和の %	200 57.1%	150 42.9%	350 100.0%
	パートタイム勤務	度数 総和の %	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%
	自 営	度数 総和の %	9 37.5%	15 62.5%	24 100.0%
	無 職	度数 総和の %	2 28.6%	5 71.4%	7 100.0%
	いない	度数 総和の %	4 30.8%	9 69.2%	13 100.0%
	不 明	度数 総和の %	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
合計		度数 総和の %	216 54.4%	181 45.6%	397 100.0%

父親の就労形態と奨学金の希望との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-7 母親の就労形態 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数 総和の %	57 57.6%	42 42.4%	99 100.0%
	パートタイム勤務	度数 総和の %	76 51.0%	73 49.0%	149 100.0%
	自 営	度数 総和の %	15 53.6%	13 46.4%	28 100.0%
	無 職	度数 総和の %	66 56.9%	50 43.1%	116 100.0%
	いない	度数 総和の %	2 50.0%	2 50.0%	4 100.0%
	不 明	度数 総和の %	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
合計		度数 総和の %	216 54.4%	181 45.6%	397 100.0%

母親の就労形態と奨学金の希望との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-8 家計支持者 と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者	父親	度数	208	164	372
		総和の%	55.9%	44.1%	100.0%
	母親	度数	8	17	25
		総和の%	32.0%	68.0%	100.0%
	その他	度数	0	0	0
		総和の%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	216	181	397
		総和の%	54.4%	45.6%	100.0%

家計支持者が父親の場合は、奨学金の希望が少なく、家計支持者が母親の場合は、奨学金の希望が多いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

表 3-9 入学後の暮らし向き と 奨学金希望群 のクロス表

			奨学金希望群		合計
			希望しない	希望する	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	8	57	65
		総和の %	12.3%	87.7%	100.0%
	あまりゆとりがない	度数	74	101	175
		総和の %	42.3%	57.7%	100.0%
	多少ゆとりがある	度数	113	18	131
		総和の %	86.3%	13.7%	100.0%
	ゆとりがある	度数	19	0	19
		総和の %	100.0%	0.0%	100.0%
	不明	度数	2	5	7
		総和の %	28.6%	71.4%	100.0%
合計		度数	216	181	397
		総和の %	54.4%	45.6%	100.0%

入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、奨学金の希望が多く、ゆとりがある場合は、奨学金の希望が少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

(4) 学生寮に関する結果

①新入生の結果

どのような学生が、学生寮を知っているのかを明らかにするため、「学生寮の認知」×「奨学金の受給歴」、「兄弟の人数」、「出身地」のクロス表を作成した。「学生寮の認知」は、選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」とした。それぞれの結果を表 4-1～4-3 に示す。

表 4-1 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知らない	知っている	
奨学金受給経験	なし	度数	85	276	361
		総和の %	23.5%	76.5%	100.0%
	あり	度数	13	42	55
		総和の %	23.6%	76.4%	100.0%
合計		度数	98	318	416
		総和の %	23.6%	76.4%	100.0%

過去の奨学金の受給経験と学生寮の認知について、有意な関係は見られなかった。昨年度は、奨学金の受給経験がある場合、学生寮の認知が高く、奨学金の受給経験がない場合、学生寮の認知が低いことが示されていた。

表 4-2 兄弟姉妹人数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知らない	知っている	
兄弟姉妹人数	2	度数 総和の %	64 27.5%	169 72.5%	233 100.0%
	3	度数 総和の %	20 21.5%	73 78.5%	93 100.0%
	4	度数 総和の %	1 6.3%	15 93.8%	16 100.0%
	5	度数 総和の %	0 0.0%	4 100.0%	4 100.0%
	非該当	度数 総和の %	12 19.4%	50 80.6%	62 100.0%
	不明	度数 総和の %	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%
合計		度数	98	312	410
		総和の %	23.9%	76.1%	100.0%

兄弟姉妹の人数と学生寮の認知との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 4-3 出身地 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知らない	知っている	
出身地	国 内	度数	96	303	399
		総和の %	24.1%	75.9%	100.0%
	海 外	度数	2	5	7
		総和の %	28.6%	71.4%	100.0%
	不 明	度数	0	4	4
		総和の %	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	98	312	410
		総和の %	23.9%	76.1%	100.0%

出身地と学生寮の認知との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

②保護者の結果

どのような保護者が、子ども学生寮への入寮を希望しているかを明らかにするため、「学生寮の入寮希望」×「奨学金の受給経験」、「奨学金の認知」、「学生寮に対する認知」、「世帯年収」、「家計支持者の年収」、「父親の就労形態」、「母親の就労形態」、「家計支持者の属性」、「入学後の暮らし向き」のクロス表を作成した。それぞれの結果を表 5-1～5-9 に示す。

表 5-1 奨学金受給経験 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
奨学金受給経験	経験なし	度数	249	135	384
		総和の %	64.8%	35.2%	100.0%
	経験あり	度数	19	13	32
		総和の %	59.4%	40.6%	100.0%
合計		度数	268	148	416
		総和の %	64.4%	35.6%	100.0%

過去の奨学金の受給経験と学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-2 奨学金認知 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
奨学金認知	知らない	度数	72	48	120
		総和の %	60.0%	40.0%	100.0%
	知っている	度数	196	100	296
		総和の %	66.2%	33.8%	100.0%
合計		度数	268	148	416
		総和の %	64.4%	35.6%	100.0%

奨学金についての認知と、学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-3 学生寮認知 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
学生寮認知	知らない	度数	134	139	273
		総和の %	49.1%	50.9%	100.0%
	知っている	度数	134	9	143
		総和の %	93.7%	6.3%	100.0%
合計		度数	268	148	416
		総和の %	64.4%	35.6%	100.0%

学生寮について認知している場合は、学生寮への入寮の希望は少なく、知らない場合は、入寮の希望が多いことが示された。昨年度は学生寮を知っている場合は、学生寮への入寮の希望が多く、知らない場合は入寮の希望は少ないという結果が示された。

表 5-4 世帯年収 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
世帯年収	400万円未満	度数 総和の %	10 40.0%	15 60.0%	25 100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数 総和の %	12 48.0%	13 52.0%	25 100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数 総和の %	53 59.6%	36 40.4%	89 100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数 総和の %	53 63.1%	31 36.9%	84 100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数 総和の %	55 72.4%	21 27.6%	76 100.0%
	1200万円以上 1400万円未満	度数 総和の %	27 79.4%	7 20.6%	34 100.0%
	1400万円以上 1600万円未満	度数 総和の %	24 96.0%	1 4.0%	25 100.0%
	1600万円以上 1800万円未満	度数 総和の %	14 93.3%	1 6.7%	15 100.0%
	1800万円以上	度数 総和の %	15 83.3%	3 16.7%	18 100.0%
	不明	度数 総和の %	5 83.3%	1 16.7%	6 100.0%
	合計	度数 総和の %	268 67.5%	129 32.5%	397 100.0%

世帯年収が低い場合は、学生寮への入寮の希望が多く、世帯年収が高い場合は、学生寮への入寮の希望は少ないことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。昨年度の結果では、世帯年収と学生寮への入寮の希望との間に、有意な関連は見られなかったが、本年度の結果では、このような関連が見られた。

表 5-5 家計支持者の年収 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者の 年収	400万円未満	度数 総和の %	12 37.5%	20 62.5%	32 100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数 総和の %	29 61.7%	18 38.3%	47 100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数 総和の %	60 56.6%	46 43.4%	106 100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数 総和の %	69 75.0%	23 25.0%	92 100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数 総和の %	49 79.0%	13 21.0%	62 100.0%
	1200万円以上 1400万円未満	度数 総和の %	18 75.0%	6 25.0%	24 100.0%
	1400万円以上 1600万円未満	度数 総和の %	17 100.0%	0 0.0%	17 100.0%
	1600万円以上 1800万円未満	度数 総和の %	4 80.0%	1 20.0%	5 100.0%
	1800万円以上	度数 総和の %	7 87.5%	1 12.5%	8 100.0%
	不明	度数 総和の %	3 75.0%	1 25.0%	4 100.0%
合計		度数 総和の %	268 67.5%	129 32.5%	397 100.0%

家計支持者の年収が低い場合は、学生寮への入寮の希望が多く、家計支持者の年収が高い場合は、学生寮への入寮の希望は少ないことが示された。昨年度の結果では、家計支持者の年収と学生寮への入寮の希望との間に、有意な関連は見られなかったが、本年度の結果では、このような関連が見られた。

表 5-6 父親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数 総和の %	246 70.3%	104 29.7%	350 100.0%
	パートタイム勤務	度数 総和の %	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%
	自 営	度数 総和の %	12 50.0%	12 50.0%	24 100.0%
	無 職	度数 総和の %	2 28.6%	5 71.4%	7 100.0%
	いない	度数 総和の %	6 46.2%	7 53.8%	13 100.0%
	不 明	度数 総和の %	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計		度数 総和の %	268 67.5%	129 32.5%	397 100.0%

父親の就労形態が「フルタイム勤務」である場合は、学生寮への入寮の希望は少ないが、「無職」である場合、学生寮への入寮を希望する割合が多いことが示された。「パートタイム勤務」「自営」「いない」と回答した場合は、有意な関連は見られなかった。昨年度の結果では、父親の就労形態と学生寮への入寮の希望との間に、有意な関連は見られなかったが、本年度の結果では、このような関連が見られた。

表 5-7 母親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数 総和の %	67 67.7%	32 32.3%	99 100.0%
	パートタイム勤務	度数 総和の %	102 68.5%	47 31.5%	149 100.0%
	自 営	度数 総和の %	19 67.9%	9 32.1%	28 100.0%
	無 職	度数 総和の %	77 66.4%	39 33.6%	116 100.0%
	いない	度数 総和の %	3 75.0%	1 25.0%	4 100.0%
	不 明	度数 総和の %	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
合計		度数 総和の %	268 67.5%	129 32.5%	397 100.0%

母親の就労形態と学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

表 5-8 家計支持者 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
家計支持者	父親	度数	256	116	372
		総和の%	68.8%	31.2%	100.0%
	母親	度数	12	13	25
		総和の%	48.0%	52.0%	100.0%
	その他	度数	0	0	0
		総和の%	0.0%	0.0%	0.0%
合計		度数	268	129	397
		総和の%	67.5%	32.5%	100.0%

家計支持者と学生寮への入寮の希望との間には、有意な関連は見られなかった。昨年度は父親、母親に関わらず学生寮の希望が多かったが、本年度はこのような結果となった。

表 5-9 入学後の暮らし向き と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望しない	希望する	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数 総和の %	20 30.8%	45 69.2%	65 100.0%
	あまりゆとりがない	度数 総和の %	116 66.3%	59 33.7%	175 100.0%
	多少ゆとりがある	度数 総和の %	112 85.5%	19 14.5%	131 100.0%
	ゆとりがある	度数 総和の %	17 89.5%	2 10.5%	19 100.0%
	不明	度数 総和の %	3 42.9%	4 57.1%	7 100.0%
合計		度数 総和の %	268 67.5%	129 32.5%	397 100.0%

入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合、学生寮への入寮の希望が多く、入学後の暮らし向きにゆとりがあると感じている場合、学生寮への入寮の希望は少ないことが示された。昨年度の結果では、入学後の暮らし向きと学生寮への入寮の希望との間に、有意な関連は見られなかったが、本年度の結果では、このような関連が見られた。

(5) 考察と今後の課題

①奨学金に関する考察と今後の課題

奨学金についての新生入生の結果をまとめると、「奨学金の認知」については、「学生寮について認知している者」は、奨学金の認知が高いことが示された。これは昨年度の調査でも、同様の結果が示されている。昨年度では示されなかった結果として、奨学金の受給経験と奨学金の認知に有意な関連は見られなかったことと、出身地別の奨学金認知は国内の場合は認知している者が多く、海外の場合は少ないことが示された。

また、「奨学金の受給経験」については、昨年度は「学生寮について認知している者」は、奨学金の受給経験があることが多かったが、今年度は有意な関係は見られなかった。奨学金の認知と兄弟姉妹人数との関連についても、昨年度と同様に関連は見られなかった。

新生入生の「奨学金認知」の割合は、「知っている」65.9%、「知らない」34.1%となっており、昨年度の「知っている」70.0%、「知らない」30.0%と比べて、大きな変化は見られなかった。「奨学金の受給経験」の割合は、「受給経験あり」13.4%、「受給経験なし」86.6%となっており、昨年度の「受給経験あり」7.8%、「受給経験なし」92.3%と比べると、奨学金の受給経験がある者の割合が微増していることが示された。これらのことをふまえると、大学で申込のできる奨学金についての認知は、昨年度と比べ大きな変化はないが、過去に受給経験のある者が増えているため、今後奨学金の受給を希望する者も増えると考えられる。このため、大学は奨学金についての情報を発信していく必要があると考えられる。

次に、奨学金について保護者の結果をまとめると、奨学金の希望が多いのは、「これまでに奨学金の受給経験がある者」、「奨学金について認知している者」、「学生寮について認知している者」、「世帯年収が低い者」、「家計支持者の年収が低い者」、「家計支持者が母親の者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」であることが示された。これは昨年度の調査でも同様の結果が見られており、今年度の結果も昨年度に沿った結果と考えられる。

保護者の「奨学金の希望」の割合は、「希望する」43.5%、「希望しない」56.5%となっており、昨年度の「希望する」47.9%、「希望しない」52.1%に比べると、大きな変化は見られなかった。ただし、奨学金を希望する保護者の傾向は昨年と同じであることから、引き続き経済的支援が求められていると考えられる。

②学生寮に関する考察と今後の課題

学生寮についての新生入生の結果をまとめると、「奨学金の受給経験」、「兄弟姉妹人数」、「出身地」との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度の調査でも、同様の結果が示されている。

新生入生の「学生寮の認知」の割合は、「知っている」76.4%、「知らない」23.6%となっており、昨年度の「知っている」74.7%、「知らない」25.3%に比べて、大きな変化は見られなかった。

次に、学生寮について保護者の結果をまとめると、学生寮の希望が多いのは、「世帯年収が低い者」、「家計支持者の年収が低い者」、「父親の就労形態が無職である者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」であることが示された。これらの項目は、昨年度の調査で学生寮の希望との間に有意な関連は見られなかったが、今年度はこのような関連が見られた。また表 5-3 のように、学生寮について認知している者が、必ずしも学生寮を希望していないことも示された。保護者の「学生寮認知」の割合は、「知っている」65.5%、「知らない」34.4%という結果であった。学生寮の認知についてはある程度進んでいるといえる。

保護者の「学生寮の希望」の割合は、「希望する」35.6%、「希望しない」64.4%となっており、昨年度の「希望する」94.2%、「希望しない」5.8%と、割合に大きな変化が見られた。昨年度有意な関連が見られなかったものに関して、今年度関連が見られたのはこのことが起因している。学生寮を希望する者の傾向について、昨年度と比べて「世帯年収の

多い割合が増えた」、「入学後の暮らし向きにゆとりがあるという割合が増えた」ということは見られていない。すなわち、それぞれの内訳には大きな変化がないことから、経済的支援を踏まえた学生寮のニーズに応えていく必要があると考えられる。

(6) まとめ

本章では、新入生および保護者を対象に、奨学金と学生寮の現状と課題について検討した。その結果以下の2点が示唆された。

第1に、奨学金について認知している者は、学生寮についても認知している者が多い傾向にあることが示された。また過去に奨学金受給の経験がある者が増えていることから、引き続き受給経験者の割合の変化を見守るとともに、大学生が受給できる奨学金の情報を発信していく必要がある。

第2に、奨学金の希望と学生寮の入寮の希望は一致せず、世帯年収・家計支持者の年収が低い者、入学後の暮らし向きにゆとりのない者が学生寮を希望することが示された。経済的支援の面からの学生寮の需要はあるが、通学範囲に在住している者は学生寮の必要性は低く、都道府県別等の真に学生寮を必要としている者の傾向を読み解く必要がある。自宅が遠方にある者と、通学範囲に在住している者とは、奨学金の希望、学生寮の希望の傾向は必ずしも一致しないと考えられる。

大学において、奨学金と学生寮の提供は学生支援の一環として行われている。支援が必要な学生の傾向を把握することで、そのニーズに応える形での奨学金制度と学生寮の提供が行われるのが望ましいと考えられる。また本学は「国際学生宿舎」、「お茶大 SCC」、「小石川寮（大学院生向け）」と3つの異なる機能をもつ学生寮を設置している。学生寮別に希望者の傾向を読み解くことは、今後の寮運営の参考になると考えられる。